

平成29年度第1回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「春の魚たち~小さな水路のおおきなはたらき&プランクトン観察」

開催日時：平成29年4月15日（土）午前10時00分から午後2時30分まで

開催場所：（午前）かすみがうら市戸崎 霞ヶ浦そばの農業水路

（午後）霞ヶ浦環境科学センター研修室

参加者：38名

平成29年度最初の霞ヶ浦自然観察会は、毎年春に行っている農業水路での魚の観察会を行いました。今回は午後からプランクトンの観察も行いました。

毎年、春に水路で魚の観察を行うのには理由があります。それはこの季節になるとコイやフナの仲間が農業水路やハス田、水田などの水域に産卵のために遡ってくるからです。これをのっこみといいます。なぜこれほど浅くて細い水路に大きな魚が数多く遡ってくるのだろうと驚いてしまいますが、それには理由があります。まず産卵のためにはオスとメスが会う場所が必要です。そして卵や産まれたばかりの仔稚魚が大型魚に食べられないように安全な場所でなくてはなりません。さらにふ化した仔稚魚が成育するための餌がたくさんある場所であることも大切です。それらの条件を春の水路は満たしているのです。

当日はやや風が強かったものの、霞ヶ浦の堤防が風を遮り、絶好の観察日和となりました。魚の採集方法や安全について説明したあと、さっそく参加者のみなさんで魚の採集を開始しました。はじめは水路の底にたまった泥にやや悪戦苦闘気味のみなさんでしたが、コツを掴むとギンブナやモツゴ、タイリクバラタナゴなどが次々に観察用のバケツに集まりだしました。しだいに産卵前のギンブナやゲンゴロウブナなどの大物も集まり、さらに魚取りが得意なセンターパートナーによって70cmのコイも捕獲されました。またタイリクバラタナゴのオスは鮮やかな婚姻色となり、メスは産卵管が伸びていました。加えてタナゴの産卵母貝となるドブガイや水没した植物に産み付けられた無数のフナ類の卵なども観察することができ、小さな水路が魚たちのゆりかごとなっていることがわかりました。

午後は霞ヶ浦環境科学センター研修室で、プランクトンの観察を行いました。急速に水温が上がる水路などの浅い水域では、プランクトンがたくさん増えて、ふ化した仔稚魚の餌となります。それらの小さな生き物を顕微鏡で観察してみました。初めて顕微鏡に触る小さな子どもから、顕微鏡を最後に触れてからもうずいぶん時間が経った大人まで、幅広い年齢層の参加者のみなさんでしたが、全員自分の力で動物プランクトンと植物プランクトンを観察することができました。植物プランクトンから動物プランクトン、そして魚や鳥類、われわれ人間まで「食べる・食べられる」という関係でつながっていることも学びました。

今年度最初の霞ヶ浦自然観察会を無事スタートすることができました。引き続き、これからの霞ヶ浦自然観察会もよろしくお願ひします。

参加者のみなさん、パートナーのみなさん、ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察した主な生き物。

コイ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、モツゴ、タイリクバラタナゴ、ツチフキ、
ドジョウ、ヨシノボリ、ヒメタニシ、ドブガイ、スクミリングガイ、クサガメ

観察会の様子を御紹介します。



観察場所はハス田のそばの小さな水路です。



大きなフナが取れた！



約 70cm のコイ！



みんなで採集した生き物を観察します。



プランクトンの観察です。



みなさん真剣に顕微鏡を覗いています。